



ちゃんめろだより

第50号
2018.1.1



白馬村・小谷村では、「ふきのとう」を方言で『ちゃんめろ』と言います

発行：長野県姫川砂防事務所（北安曇郡小谷村千国乙10307-3/電話0261-82-3100）



姫川橋

姫川橋は、鋼材が少ない戦前に、鉄橋に代わる十分な強度を持った鉄筋コンクリートの橋として、長野県の道路技師 中島武が設計した「鉄筋コンクリート・ローゼ桁群」と呼ばれる橋のひとつで、土木学会選奨土木遺産に選ばれています。アーチリブという弓形の構造物が下向きにかかる橋の重さを両端に逃がし、強度を保つ仕組みです。歴史ある橋は、今も人々の生活を支えています。

新春を迎えて

あけましておめでとうございます。

皆様方には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より砂防事業の推進にご理解とご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。

平成26年11月22日に「神城断層地震」が発生してから、はや3年2か月の月日がたちました。その間、当所が進めてきた災害関連の復旧工事等につきましては、地域の皆様方のご支援、ご協力により順調に進み、ほぼ完了に近づいてまいりました。被災された皆様には、大変ご苦労された道のりであったと思います。私どももこの震災の記憶を胸に刻み、

災害に備えるための事業を、今後も着実に進めてまいります。

さて、今年4月から、県の新たな総合5か年計画がスタートします。この計画は、県が「どんな仕事に力をいれていくか」を示すもので、基本目標は「確かな暮らしが営まれる美しい信州～学びと自治の力で拓く新時代～」です。地域の安全、安心は、確かな暮らしを支える礎であることから、当所が担う土砂災害対策を計画的に推進するよう取り組んでまいります。

また、近年、全国各地で記録的な豪雨が頻発するなか、いつどこにでも発生しうる土砂災害に備えるため、地域の皆様が避難する体制づくりの支援や両村と連携した土砂災害に関する情報の提供なども、さらに進めてまいります。

新年にあたり、安全・安心で魅力ある地域づくりに努め、皆様にとって「頼りになる砂防事務所」を目指してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとり良い年で穏やかな年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

長野県姫川砂防事務所長 木村智行

新ながの・公明 お出かけ政調会 が開催されました

12月11日と12日の両日、長野県議会の会派「新ながの・公明」の「お出かけ政調会」が大北地域で開催されました。

12月11日に姫川砂防事務所で行われた現地調査では、神城断層地震からの復興状況などについて、熱心な質疑応答が行われました。

また、現地調査の冒頭、白馬村・小谷村から「姫川砂防事務所のハード・ソフト両面における機能強化」について要望書が提出されました。



両村から村上会長に要望書を提出



質疑応答

長野県議会 新ながの・公明 派

委 託 書



白馬村・小谷村

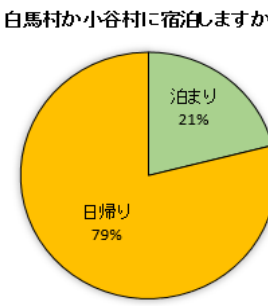
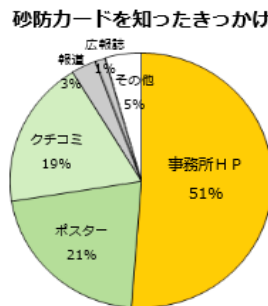
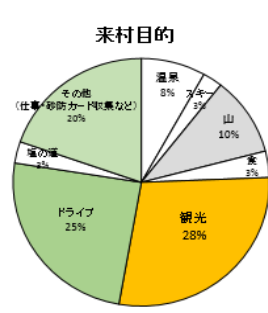
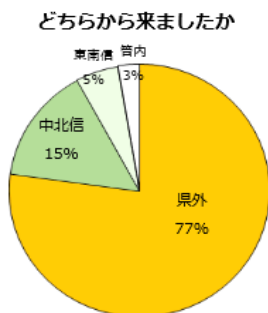
白馬村及び小谷村の砂防施設整備事業の進捗につきましては、皆様から御質問の御返答に、要する御答申は以下のとおりです。
 御指摘は、姫川断層にあって、連続した断層帯を形成していることから、被害想定が大きく広域に及び、砂防事業の重要性がより一層高まっております。砂防事業は、断層帯の発生による被害の軽減を図る上で、重要な役割を担っており、断層帯の発生により被害の拡大が懸念され、大規模な砂防事業が実施されるなど、断層帯の発生に備えることが必要でございます。
 こうした中、断層帯に備えるための砂防事業の重要性は、断層帯の発生による被害の軽減を図る上で、重要な役割を担っており、断層帯の発生に備えることが必要でございます。
 しかしながら、その事業は、断層帯の発生に備える上で、断層帯の発生に備えることが必要でございます。断層帯の発生に備えることが必要でございます。断層帯の発生に備えることが必要でございます。
 つきましては、姫川砂防事務所を拠点として、断層帯の発生に備えることが必要でございます。断層帯の発生に備えることが必要でございます。断層帯の発生に備えることが必要でございます。
 以上、ご質問にお答え申し上げます。御不明な点がございましたら、お問い合わせください。
 平成29年12月11日
 白馬村長 松本 久志
 小谷村村長 下川 正剛

お見えになった議員さんは、宮澤敏文議員、村上 淳 議員、小川修一議員、小山仁志議員の4名。

砂防事業以外にも、砂防カードについて関心を寄せられ、「ちゃんめろだより」をお読みいただいているなど、当所の事業にご注目いただいている様子でした。

今後とも砂防事業の促進にお力添えをよろしくお願い申し上げます。

砂防カードお客様アンケートに見る傾向



すでにお知らせしたとおり、10月20日から砂防カードの第2弾をお配りしていますが、前回に引き続き、各方面で大きな反響をいただいております。では、砂防カードをお求めになるお客様とは、どんな方々でしょうか？

砂防カード第1弾を求めてお見えになったお客様にアンケートをお願いしたところ、なんとお客様の77%は県外から、そして、8割の方がドライブなども含めた観光目的でお見えになったことがわかりました。もはや愛好家の方だけのものではなくなったと言えます。

また、事務所ホームページを見て来られた方が51%であり、事前に白馬村・小谷村のことをネットでお調べになり、旅の思い出としてゲットされる方が多いと思われます。

とても興味深いアンケート結果となりました。

先日、FM長野「ラジモ！」で、ダイナマイトマンダムさんが、砂防カードについて2週にわたって採り上げてくださいました。入口はカードであっても、これをきっかけにして、砂防事業に対する理解が一層深まっていけば、と仰っていました。全くそのとおりだと思います。今後も、砂防事業を県内外に発信していきたいと考えております。

新たな施設のご紹介①（立の間）

白馬村の立の間地区を流れる清水沢川は一級河川姫川の支溪流で流域面積0.11km²、河床勾配1/2.3と非常に急勾配な溪流で、平成7年7月豪雨では土石流が発生し土砂が堆積したり村道が損壊する被害が発生しました。

氾濫区域には集会所、人家、村道、国道148号等が存在し、土石流が発生した場合には道路の寸断、住民の孤立化が想定されることから、姫川砂防事務所では平成21年より砂防事業を行ってきました。平成28年度には立の間砂防堰堤の本堤を打設し、今年度は堰堤下流の溪流保全工を整備し平成29年12月にはすべての工事が完了しました。

完成した立の間砂防堰堤



砂防堰堤の大きさは高さ10.5m、幅57.0mで堤体のコンクリートの量は2,730m³です。

施工中は7月初めの梅雨前線豪雨や10月の度重なる台風、例年より早い積雪の影響を受けましたが、年内に無事完成することが出来ました。

何年もの間、工事にご協力いただいた立の間地区の皆さんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

工事の施工にあたって

清水沢川は急峻で狭小な地形のため掘削からコンクリートの打設、埋戻に至るまで作業場所の確保及び施工順序の選定に非常に苦労しました。また地質も複雑で土質の変化が多く湧水も頻繁に発生し、土砂崩壊の危険が高く掘削法面の安全管理には特に留意して施工を行いました。

現場発生土を有効利用したINSEM工法による砂防堰堤工から流路工、山腹工まで担当しましたが、昨今の異常気象による降水量は予想できないため、地域住民が災害の不安なく安心して暮らせる砂防堰堤が無事に完成でき嬉しく思います。



現場代理人
姫川建設(株)山根将志さん

新たな施設のご紹介②（小谷村宮上）

小谷村の宮上地区を流れる門前沢は中谷川の支川で、平成28年7月15日未明の豪雨により発生した土石流において、村道や砂防堰堤（3基）が被災しました。

今年度より本格的に復旧工事にとりかかりましたが、現地には不安定な土が多く、大雨により再び土石流が発生する恐れのある危険と隣り合わせの状況でした。そこで、安全面にはより一層気を付け、土石流を感知する土石流センサーの設置等により事故を未然に防ぐよう努力し、平成29年12月末に無事に本堤工事を完了することができました。

なお、3号砂防堰堤の一部においてコンクリート工事が残っているため、来年度にすべて完成する予定です。



施工業者

株式会社 国広建設

現場代理人 酒井都夫 氏 (左)

現場代理人 原口佳苗 氏 (右)

代理人さんからのメッセージ

施工スペースが狭い上、例年以上に雨が続くなど過酷な現場でしたが、発注者様、協力会社様のおかげで無事竣工できました。

この度の工事完成にあたり、村道を一部通行止めにするなど近隣住民の皆様には大変ご不便をお掛けしましたが、ご協力いただき感謝申し上げます。